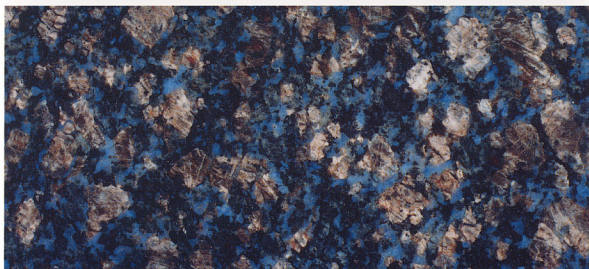
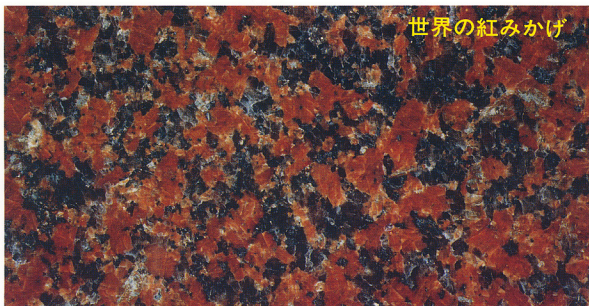


## 世界の紅みかげ



紅みかげはカリ長石が赤～褐色をおびる白みかげに対して用いられるが、我が国のものが岡山市の万成石で代表されるように淡いピンクであるのに対し、外国の安定地塊のものは色がどぎつく変化に富んでいる。その第一の原因は時代が古いことにある。たとえば上段の写真はブラジル産のカバオポニートであり、10億年以上の長い間にカリ長石中に酸化鉄の微品が生じ、この見事な赤褐色を生んだ。中段の写真は同じく先カンブリア時代のインド、ワランガル産のサファイアブラウンであり、歪をうける褐色のカリ長石が、青光を発する石英に埋められて見事である。これらと対照的に、中国山東省産の中国桜(写真石)はわずか1億年前の燕山期の産物であり、日本と同じように淡色系のものに近い(写真はいずれも等倍)

(工業技術院長 石原舜三)

